

HGM-114-A

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant: Kohno et al. Group Art Unit: 3611
Serial Number: 10/667,155 Examiner: Unknown
Filed: 19 September 2003 Confirmation No.: 8730
Title: ANTI-THEFT DEVICE IN MOTORCYCLE

TRANSMITTAL OF PRIORITY DOCUMENT

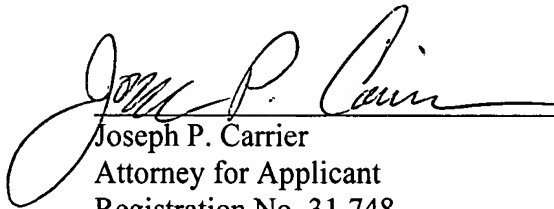
Commissioner For Patents
PO Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

In connection with the identified application, applicant encloses for filing a certified copy of: Japanese Patent Application No. 2002-281260, filed 26 September 2002, to support applicant's claim for Convention priority under 35 USC §119.

Respectfully submitted,

Customer Number 21828
Carrier, Blackman & Associates, P.C.
24101 Novi Road, Suite 100
Novi, Michigan 48375
17 December 2003


Joseph P. Carrier
Attorney for Applicant
Registration No. 31,748
(248) 344-4422

I hereby certify that this correspondence is being deposited with the U.S. Postal Service as first class mail in an envelope addressed to Mail Stop Missing Parts, Commissioner For Patents, PO Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450 on 17 December 2003.

Dated: 17 December 2003
JPC/km
enclosures


Kathryn MacKenzie

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 9 月 2 6 日
Date of Application:

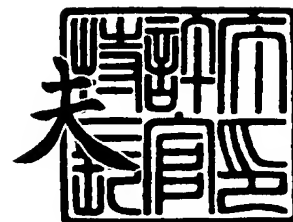
出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 2 8 1 2 6 0
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 2 - 2 8 1 2 6 0]

出 願 人 本 田 技 研 工 業 株 式 有 限 公 司
Applicant(s):

2 0 0 3 年 9 月 2 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 7 1 3 0 9

【書類名】 特許願

【整理番号】 H102245701

【提出日】 平成14年 9月26日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B60R 25/04

【発明者】

 【住所又は居所】 埼玉県和光市中央一丁目 4 番 1 号 株式会社 本田技術
 研究所内

 【氏名】 今野 健志

【発明者】

 【住所又は居所】 埼玉県和光市中央一丁目 4 番 1 号 株式会社 本田技術
 研究所内

 【氏名】 小野塚 正

【特許出願人】

 【識別番号】 000005326

 【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100084870

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 田中 香樹

【選任した代理人】

 【識別番号】 100079289

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 平木 道人

【選任した代理人】

 【識別番号】 100119688

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 田邊 壽二

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 058333

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 自動二輪車における盗難防止装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ロック手段により盗難を防止するロック機構と、
遠隔操作装置から送信されるロック解除信号を受信する受信部と、
前記ロック解除信号に応じて前記ロック機構のロック解除を行う制御部と、
特定キーの手動操作に従い前記ロック機構のロック解除を行うロック解除機構
とを備えた自動二輪車における盗難防止装置において、
前記ロック解除機構は、自動二輪車のカバー部材によって覆われていることを
特徴とする自動二輪車における盗難防止装置。

【請求項 2】 前記カバー部材のうち、前記ロック解除機構を覆う部分を特定
カバーとし、前記特定カバーを開閉可能にしたことを特徴とする請求項 1 に記
載の自動二輪車における盗難防止装置。

【請求項 3】 前記ロック解除機構は、前記特定キーを挿入し得るキーシリ
ンダ部を有し、前記キーシリンダ部は、特定キーの挿入方向が側面視で下方から
上方へ指向する位置に配置されていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載
の自動二輪車における盗難防止装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、自動二輪車における盗難防止装置に関し、特に、盗難を防止するロ
ック機構のロック解除を遠隔操作装置からのロック解除信号で行うものにおいて
、防盜性を維持しつつ、緊急時などにロック解除を手動で行うことができる自動
二輪車における盗難防止装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

車両外部から遠隔操作装置により送信された制御信号を車両側で受信し、該制
御信号を判別することによって、ハンドルロックやシートロックなどの制御を行
うようにした車両盗難防止装置が知られている。

【0003】

特開 2001-278155 号公報には、エンジン始動用のイグニッションキーを差し込むべきキーシリンダのキー孔を覆い隠す G ロック（シャッター式盗難防止装置）とシートを閉状態にロックするシートロックを備え、遠隔操作装置（リモコン）から送信される G ロック解除信号やシートロック解除信号に基づいて制御ユニットを制御し、制御ユニットにより駆動装置を駆動して G ロックやシートロックを解除するようにした自動二輪車の盗難防止装置が開示されている。

【0004】

前記公報に開示された盗難防止装置によれば、遠隔操作装置を所有しなければエンジンの始動やシートの開ができないため、車両や収納ボックスに収納したものの盗難を防止することができる。

【0005】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、前記特開 2001-278155 号公報に開示された盗難防止装置では、遠隔操作装置を忘れたときや、アクチュエータなどを含む駆動装置が何らかの原因で遠隔装置からのロック解除信号に応答しなくなったときなどには、G ロックやシートロックのロック解除は全くできなくなってしまう。

【0006】

このようなときでも緊急を要するときには、ユーザが手動で適宜ロック解除を行うことができることが望まれる。しかし、ロック解除に対して外部から誰もが簡単にアクセスできるとなると、防盜性が低下してしまう恐れがある。

【0007】

本発明は、このような事情にかんがみなされたものであり、盗難を防止するロック機構のロック解除を遠隔操作装置から送信されるロック解除信号で行うものにおいて、防盜性を維持しつつ、緊急時などにロック解除を手動で行うことができる自動二輪車における盗難防止装置を提供することを目的とする。

【0008】**【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するため、本発明は、ロック手段により盗難を防止するロック

機構と、遠隔操作装置から送信されるロック解除信号を受信する受信部と、前記ロック解除信号に応じて前記ロック機構のロック解除を行う制御部と、特定キーの手動操作に従い前記ロック機構のロック解除を行うロック解除機構とを備えた自動二輪車における盗難防止装置において、前記ロック解除機構は、自動二輪車のカバー部材によって覆われている点に第1の特徴がある。

【0009】

また、本発明は、前記カバー部材のうち、前記ロック解除機構を覆う部分を特定カバーとし、前記特定カバーを開閉可能にした点に第2の特徴がある。

【0010】

さらに、本発明は、前記ロック解除機構が、前記特定キーを挿入し得るキーシリンダ部を有し、前記キーシリンダ部は、特定キーの挿入方向が側面視で下方から上方へ指向する位置に配置されている点に第3の特徴がある。

【0011】

第1の特徴によれば、特定キーの手動操作に従いロック解除を行うロック解除機構を備え、該ロック解除機構はカバー部材によって覆われていて通常時には外部から見ることはできないので、ロックによる防盜性を維持しつつ、緊急時などに手でロック解除を行うことができる。また、ロック解除機構がキーシリンダを含む場合には、そのキー孔に誤ってキーその他が差し込まれる恐れがない。

【0012】

また、第2の特徴によれば、特定カバーを開くことによってロック解除機構にアクセスすることができるので、自動二輪車の全体カバーを取り外さなくても手動によるロック解除が可能になる。

【0013】

さらに、第3の特徴によれば、キーシリンダ部を外部から見えにくくすることができ、また、キーシリンダ部へ特定キーを挿入してのロック解除のための手動操作が比較的簡単でなくなるので、防盜性を向上させることが可能になる。

【0014】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の好ましい実施の形態について詳細に説明する。

図 1 は、本発明の盗難防止装置を適用したスクータ型自動二輪車の外観側面図である。ただし、ハンドルロックモジュール部は、カバーを除いて示している。同図において、車体前部 1 と車体後部 2 とは低いフロア部 3 を介して連結されており、それらの部分の骨格は、概ねダウンチューブとメインパイプとから構成される車体フレームにより形成されている。

【0015】

車体前部 1、車体後部 2 およびフロア部 3 は、それぞれフロントカバー 4、ボディカバー 5 およびセンタカバー 6 で覆われている。車体前部 1 には、ステアリングヘッドに軸支されて上方にハンドル 7 が設けられ、下方にフロントフォーク 8 が延び、その下端に前輪 9 F が軸支されている。ハンドル 7 の上部は計器板を兼ねたハンドルカバー 10 で覆われている。ステアリングヘッド、フロントフォーク 8 およびハンドル 7 は、操舵手段を構成している。

【0016】

ハンドルカバー 10 から車体左右に向けてハンドル 7 のグリップ部分が突き出し、上方にサイドミラー 11 L (11 R) が突き出している。また、操舵手段に関連して、ハンドル 7 をロックするためのハンドルロックモジュール 12 が設けられている。ハンドルロックモジュール 12 は、遠隔操作装置 (リモコン) A から送信されるロック信号やロック解除信号に応答してハンドル 7 のロックやロック解除を行うものであり、また、エマージェンシキーなどの特定キーが挿入されて手動で回動されればロック解除を行うロック解除機構を含んでいる。

【0017】

ロック解除機構は、特定キーの挿入方向が側面視で下方から上方へ指向する位置に配置されたキーシリンダ部 13 を備えている。ハンドルロックモジュール 12 の構成については後でさらに詳細に説明する。

【0018】

ボディカバー 5 内には燃料タンクおよび収納ボックスが、メインパイプにより支持されて設けられている。また、スイングユニットを介して単気筒の 4 サイクルエンジンが搭載されている。このエンジンから後方にかけてベルト式無段変速機 14 が構成され、その後部に遠心クラッチを介して設けられた減速機構 15 に

後輪 9 R が軸支されている。この減速機構 15 の上端とメインパイプとの間にはリヤクッション 16 が介装されている。

【0019】

ボディカバー 5 の上方には、収納ボックスを覆うようにシート 17 が設けられている。シート 17 は開閉可能であり、その下部の収納ボックスにはヘルメットなどを収納できるようになっている。ボディカバー 5 の後部にはナンバプレート取付部 18、荷台、テールランプなどが設けられている。エンジンに付随して吸気管、気化器、エアクリーナなども配設されているが図示を省略している。

【0020】

図 2 は、図 1 の計器板を兼ねるハンドルカバー 10 近傍の構成を示す正面図である。ハンドルカバー 10 には、スピードメータなどの計器板 21、ライト、ウインカー用などのスイッチ類 22 が配設されており、車体左右に向けてハンドル 10 のグリップ部分が突き出し、上方にサイドミラー 11 L、11 R が突き出している。

【0021】

ハンドルロックモジュール 12 の前面パネル部分がフロントカバー 4 のインナ部外側に現れており、ここにメインスイッチ 23 およびリモコンホルダ 24 が一体的に設けられている。リモコンホルダ 24 は、遠隔操作装置（以下、リモコンキーと呼ぶ。）A が挿入されて保持されるように構成されている。リモコンホルダ 24 は、例えば、リモコンキー A が抜き差しされるスリットの形態のものである。

【0022】

リモコンキー A は、図 1 に示すように、解錠ボタン a および施錠ボタン b を備えており、また、それらボタンが操作された場合に特定の ID を含むロック信号あるいはロック解除信号を送信させるための電子回路および電池を内蔵している。

【0023】

フロントカバー 4 のうち、キーシリンダ部 13 を覆う部分はエマージェンシキーカバー 25 として構成され、エマージェンシキーカバー 25 はフロントカバー

4 に対して開閉可能に構成されている。この構成により、ユーザは、エマージェンシキーカバー 25 を開き、キーシリンダ部 13 にエマージェンシキーを差し込んで回転させれば、手でハンドルロックを解除することができる。

【0024】

図 3 (a)、(b) は、ハンドルロックモジュール 12 の一例を示す正面図と側面図であり、キーシリンダ部 13 については断面で示している。ハンドルロックモジュール 12 は、コントローラ (制御部)、ハンドルロックアクチュエータ、ハンドルロック機構およびキーシリンダ部 13 を備え、キーシリンダ部 13 は、エマージェンシキー 32 が挿入されて回転されることによりロックを解除するロック解除機構の一部を構成する。

【0025】

ハンドルロックモジュール 12 の前面にはメインスイッチ 23 とリモコンホルダ 24 が配設されている。なお、リモコンホルダ 24 の内部には、リモコンキー A がリモコンホルダ 24 内に挿入されたことを検出するリモコンセット検出スイッチが設けられている。

【0026】

図 4 (a)、(b)、(c) は、エマージェンシキー 32 を用いてロックを解除する場合の操作手順を示す説明図である。まず、図 4 (a) において、フロントカバー 4 のインナ部にエマージェンシキーカバー 25 を止めているクリップ 41 を外す。なお、簡単な暗証番号などを用いなければクリップ 41 を外すことができないように構成して、他人がロック解除機構にアクセスできないようにすることもできる。クリップ 41 を外せばエマージェンシキーカバー 25 は、開閉軸 42 を軸として開くことができるようになる。

【0027】

図 4 (b) は、エマージェンシキーカバー 25 が開いた状態を示し、この状態では側面視でキーシリンダ部 13 がキー孔を下向きにして現れる。ここで、図 4 (c) に示すように、キーシリンダ部 13 のキー孔にエマージェンシキー 32 を挿入して回転させればロックが解除される。

【0028】

図5は、ハンドルロックモジュール12が内蔵するハンドルロックアクチュエータ、ハンドルロック機構、キーシリンダ13を含むロック解除機構の一例を示す概略構成図あり、同図(a)はハンドルロック解除状態、(b)はハンドルロック状態を示している。本構成は、ロックピン51の先端が筐体(フレーム取り付け部)52から突出していない時にハンドルロック解除状態(a)となり、突出している時にはハンドルロック状態(b)となる例である。

【0029】

ハンドルロックアクチュエータとしてのモータ53が回転すると、減速機構を構成するリングギア54およびインナギア55を介してロックピン51が図の左右方向に駆動される。ロックピン51がロック解除状態になるとその突出片によりロック解除検出スイッチ56が作動され、ロック状態になるとロック検出スイッチ57が作動される。これら検出スイッチ56、57の検出出力は、ハンドルロック状態を表すためにコントローラのCPUに入力される。

【0030】

リングギア54にはリングギア58、ワンウェイクラッチ59を介してキーシリンダ部13が結合されており、キーシリンダ部13にエマージェンシキー32を挿入して回動させた場合、ワンウェイクラッチ59およびリングギア58を介してリングギア54が回動するようになっている。これにより、モータ53の回転によらなくても、手動でロックピン51を引っ込めてハンドルロック解除状態にすることができる。

【0031】

図5には、ノブにより操作されるメインスイッチ23、リモコンキーAが挿入された状態のリモコンホルダ24も示しており、これらはハンドルロックモジュール12の前面パネルに配設されている。なお、リモコンホルダ24内に設けられているリモコンセットスイッチ31は、リモコンキーAがリモコンホルダ24に挿入されるとオンとなる。

【0032】

図6は、ハンドルロックモジュール12に内蔵されているコントローラの一例を示すブロック回路図である。コントローラ60は、制御部としてのCPU61

と、リモコンキー A から送信されるロック信号あるいはロック解除信号を受信する RF リモコンレシーバ 62 と、ロック検出スイッチ 57、ロック解除検出スイッチ 56、リモコンセット検出スイッチ 31 およびメインスイッチ 23 の検出出力を CPU 61 に入力するためのスイッチ入力回路 63 と、登録 ID を記憶している EEPROM などの記憶手段 64 と、アクチュエータ駆動回路 65 と、メインリレー駆動回路 66 と、メインリレー 67 と、バッテリーからの電源を CPU 61 および RF リモコンレシーバ 62 に供給する電源回路 68 とを含む。

【0033】

アクチュエータ駆動回路 65 は、リモコンキー A から送信されたロック解除信号に含まれている ID が登録 ID に一致していると CPU 61 が判断した場合にハンドルロックアクチュエータを駆動してハンドルロックを解除する。メインリレー駆動回路 66 は、リモコンキー A から送信されたロック解除信号に含まれている ID が登録 ID に一致していると CPU 61 が判断し、かつリモコンセット検出スイッチ 31 の検出出力が入力された場合に作動する。

【0034】

メインリレー 67 は、メインリレー駆動回路 66 が作動し、メインスイッチ 23 がオンされた場合に駆動されて点火装置を含む電装品への電源を供給し、エンジンの始動を可能にする。

【0035】

次に、ハンドルロックモジュール 12 を具備した盗難防止装置の動作を説明する。車両が停車していて、ハンドル 7 がロックピン 51 の突出によりロックされ、メインリレー 67 がオフで点火装置などの電装品への電源が供給されていないとする。この状態で、ユーザがリモコンキー A の解錠ボタン a を押すと、リモコンキー A から特定 ID を含むロック解除信号が送信される。

【0036】

ロック解除信号は RF リモコンレシーバ 62 で受信され、CPU 61 に入力される。CPU 61 は、入力されたロック解除信号に含まれている ID と予め記憶手段 64 に記憶されている登録 ID とを照合し、両者が一致すると判断した場合にはアクチュエータ駆動回路 65 を作動させてモータ 53 を駆動し、ロックピン

51の突出を引っ込める。これによりハンドルロックが解除され、ロック解除検出スイッチ56の検出出力がスイッチ入力回路63を介してCPU61に入力される。

【0037】

次に、ユーザがリモコンキーAをリモコンホルダ24に挿入すると、リモコンセット検出スイッチ31によりこれが検出され、挿入検出信号がスイッチ入力回路63を介してCPU61に入力される。これによりメインリレー駆動回路66が作動し、ここでメインスイッチ23をオンにすれば、メインリレー67が駆動されて点火装置を含む電装品へ電源が供給され、エンジンの始動が可能になる。

【0038】

エンジンの停止時には、まず、メインスイッチ23をオフにし、リモコンキーAをリモコンホルダ24から抜き、施錠ボタンbを押す。リモコンキーAからロック信号が送信され、これがハンドルロックモジュール12のコントローラ60で受信されると、モータ53が逆回転してロックピン51が突出し、ハンドルロック状態になってロックが完了する。

【0039】

何らかの原因でリモコンキーAから送信されるロック解除信号によってはロックピン51が駆動されなくなった場合、前記説明から明らかなように、クリップ41を外してエマージェンシキーカバー25を開き、キーシリンダ部13のキー孔にエマージェンシキー32を挿入して回動させればロックピン51を駆動することができ、手動でロック解除を行うことができる。

【0040】

図7は、リモコンキーAにさらにシートオープンボタンcを設け、これを操作することによりシート16の開閉ロックが解除されて収納ボックスへの物の出し入れができるようにされたスクータ型自動二輪車の外観側面図であり、本発明は、このようなスクータ型自動二輪車のシートロックにも同様に適用可能である。なお、図1と同一あるいは同等部分には同一番号を付してある。

【0041】

リモコンキーAの解錠ボタンa、施錠ボタンbが押された場合の動作は、前記

実施形態と同じである。シートオープンボタン c を押すと、リモコンキー A からシートオープン信号が送信される。

【0042】

シートオープン信号がハンドルロックモジュール 12 内のコントローラで受信され、受信された信号に含まれている ID が登録 ID と一致するものであると、シートアクチュエータ 71 が駆動され、シートキャッチャ 72 によるシートロックが解除され、シート 16 が開閉可能になり、その下部の収納ボックスへの物の出し入れができるようになる。

【0043】

シートキャッチャ 72 を特定キーの挿入、回動により駆動可能に構成することにより、リモコンキー A から送信されるシートオープン信号によってはシートアクチュエータ 71 が駆動されなくなった場合、ハンドルロックと同様に、手動でシートロックを解除することができる。

【0044】

本発明においては種々の変形が可能である。例えば、以上では、ロック解除について説明したが、ロックについても同様に手動で行えるようにしてもよい。また、本発明は、ハンドルロックやシートロック以外の自動二輪車の盗難防止用ロックに適用し得る。

【0045】

さらに、ハンドルロックモジュール 12 の構成は一例にすぎず、メインスイッチ 23 をハンドルカバー 10 に設けたり、リモコンホルダ 24 をハンドルカバー 10 や計器板 21 近傍に設けたりすることができる。また、リモコンホルダ 24 を設置することなく、したがって、リモコンセットスイッチ 31 によらずリモコンキー A の操作のみでエンジンの始動を可能にすることもできる。

【0046】

【発明の効果】

以上の説明から明らかなように、本発明によれば、特定キーの手動操作に従いロック解除を行うロック解除機構を備え、該ロック解除機構はカバー部材によって覆われていて通常時には外部から見ることはできないので、ロックによる防盜

性を維持しつつ、緊急時などにロック解除を行うことができる。また、ロック解除機構がキーシリンダを含む場合には、そのキー孔に誤ってキーその他が差し込まれる恐れがない。

【0047】

また、特定カバーを開くことによってロック解除機構にアクセスすることができるので、自動二輪車の全体カバーを取り外さなくても手動によるロック解除が可能になる。さらに、キーシリンダ部を外部から見えにくくすることができ、また、キーシリンダ部へ特定キーを挿入してのロック解除のための手動操作が比較的簡単でなくなるので、防盜性を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の盜難防止装置を適用したスクータ型自動二輪車の外觀側面図である。

【図2】 図1のハンドルカバー近傍の構成を示す正面図である。

【図3】 ハンドルロックモジュールの一例の正面図および側面図である。

【図4】 ロック解除の操作手順を示す説明図である。

【図5】 ハンドルロックモジュールの内部機構の一例を示す概略構成図である。

【図6】 コントローラ（制御部）の一例を示すブロック回路図である。

【図7】 本発明を適用できる他のスクータ型自動二輪車の外觀側面図である。

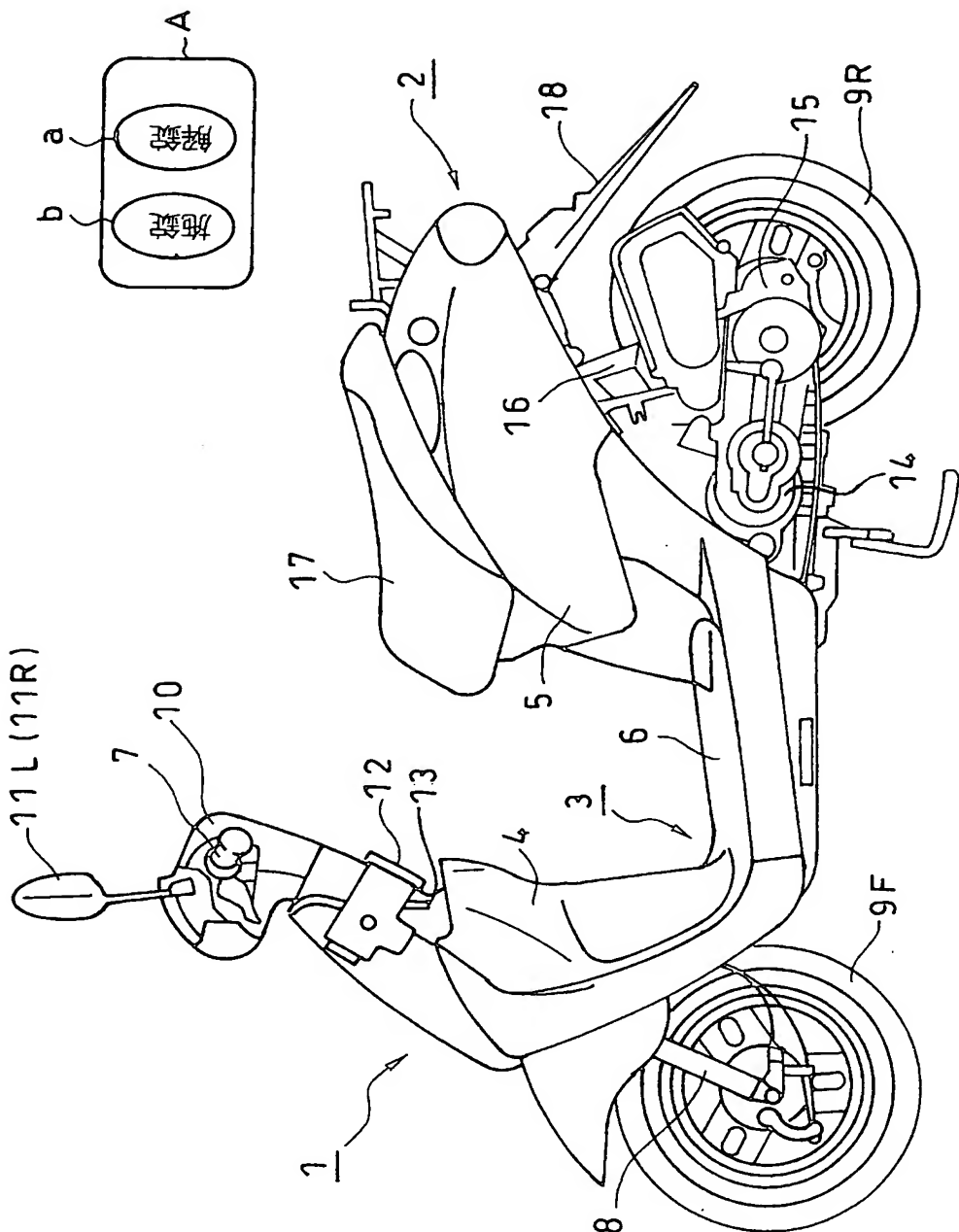
【符号の説明】

1…車体前部、2…車体後部、3…フロア部、4…フロントカバー、5…ボディカバー、6…センタカバー、7…ハンドル、8…フロントフォーク、9F…前輪、9R…後輪、10…ハンドルカバー、11L、11R…サイドミラー、12…ハンドルロックモジュール、13…キーシリンダ部、14…ベルト式無段変速機、15…減速機構、16…リアクッション、17…シート、18…ナンバープレート取り付け部、21…計器板、22…スイッチ類、23…メインスイッチ、24…リモコンホルダ、25…エマージェンシキーカバー、31…リモコンセットスイッチ、32…エマージェンシキー、41…

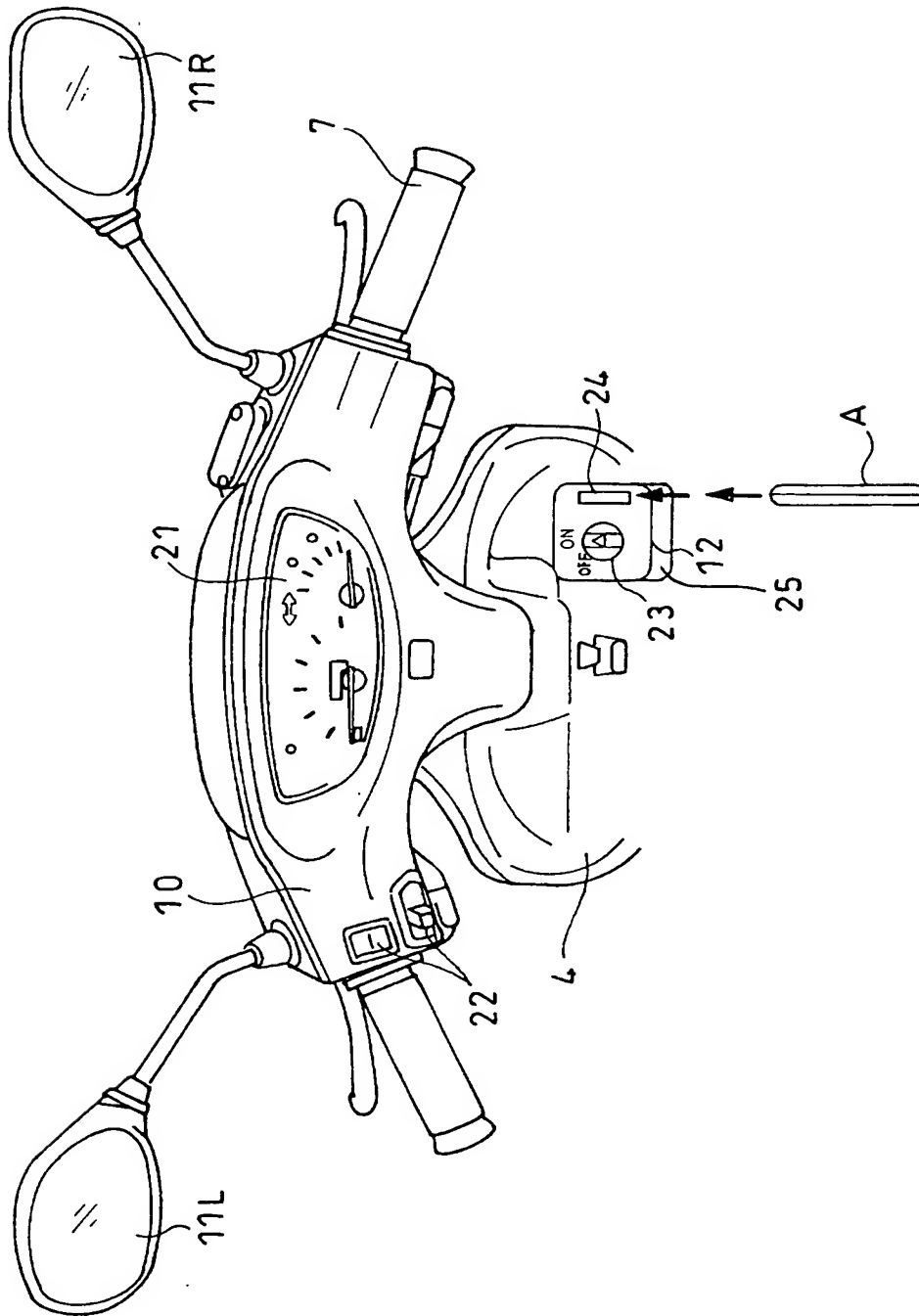
・クリップ、42…開閉軸、51…ロックピン、52…筐体、53…モータ、54…リングギア、55…インナギア、56…解錠検出スイッチ、57…施錠検出スイッチ、58…リングギア、59…ワンウェイクラッチ、60…コントローラ（制御部）、61…CPU、62…RFリモコンレシーバ、63…スイッチ入力回路、64…記憶手段、65…アクチュエータ駆動回路、66…メインリレー駆動回路、67…メインリレー、68…電源回路、71…シートアクチュエータ、72…シートキャッチャ、A…リモコンキー（遠隔操作装置）、a…解錠ボタン、b…施錠ボタン、c…シートオープンボタン

【書類名】 図面

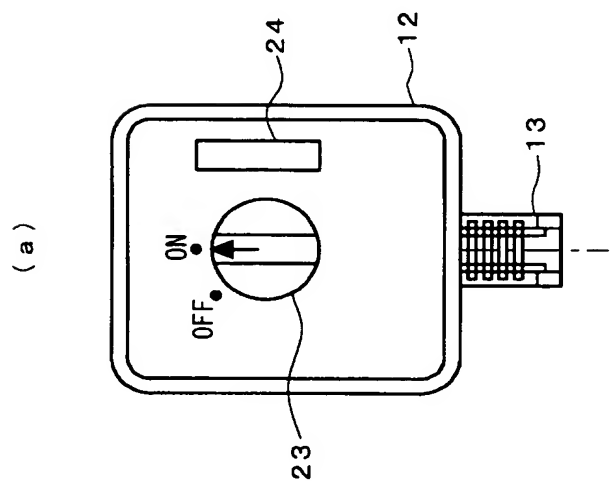
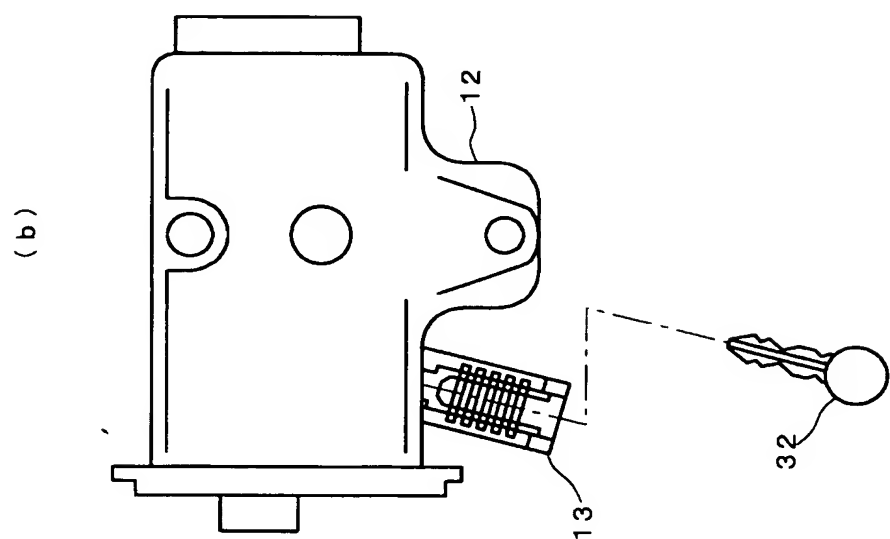
【図 1】



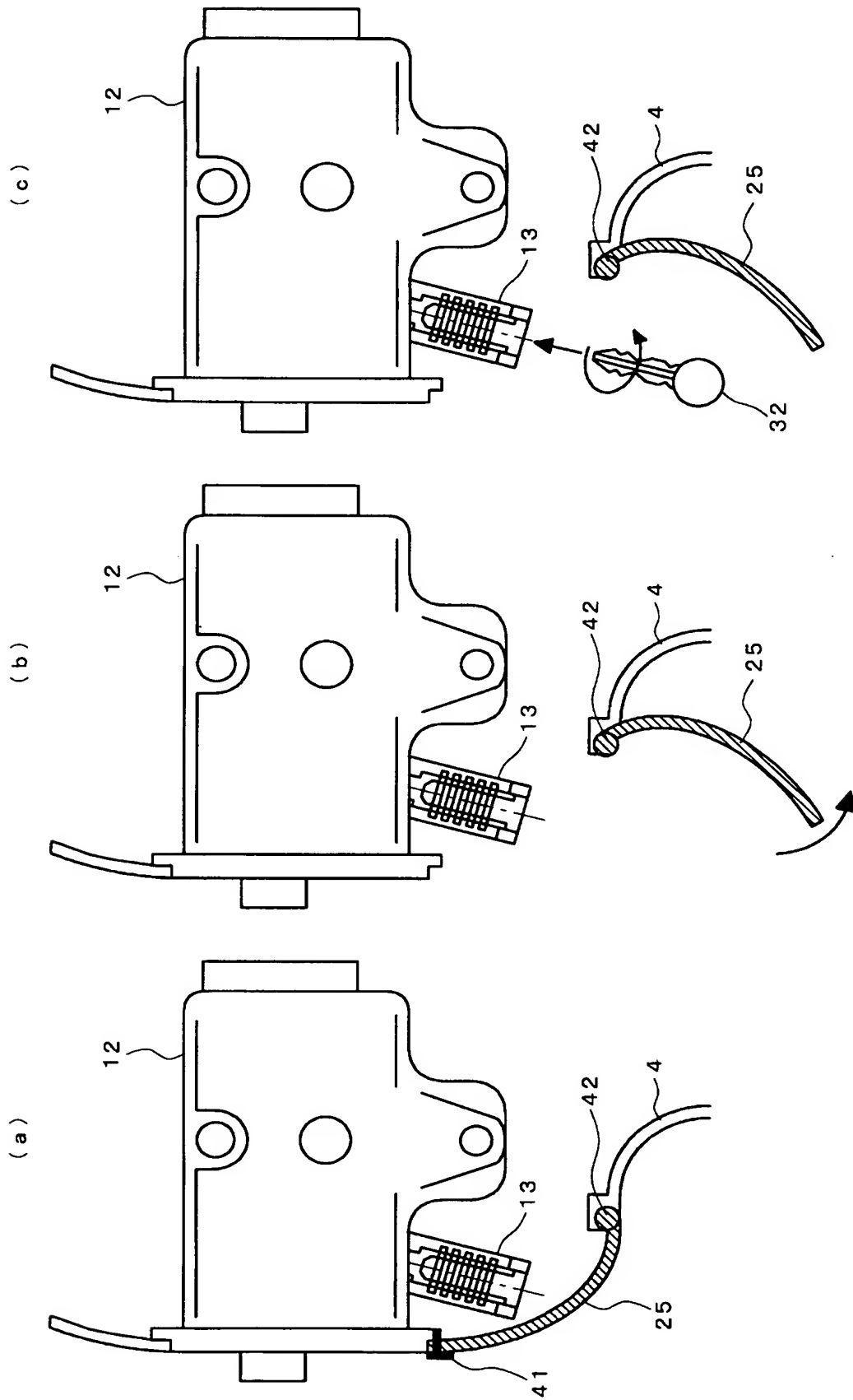
【図 2】



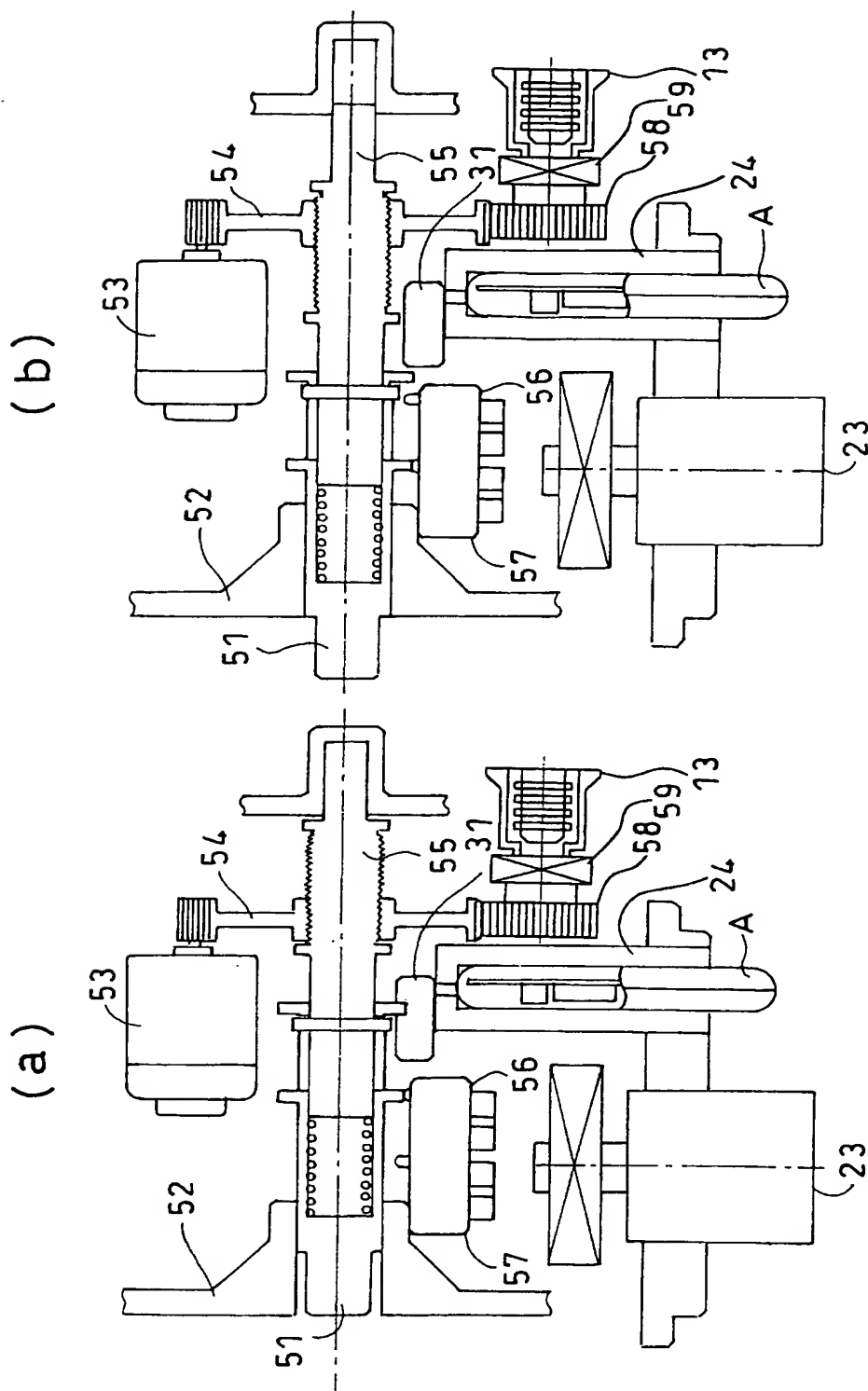
【図 3】



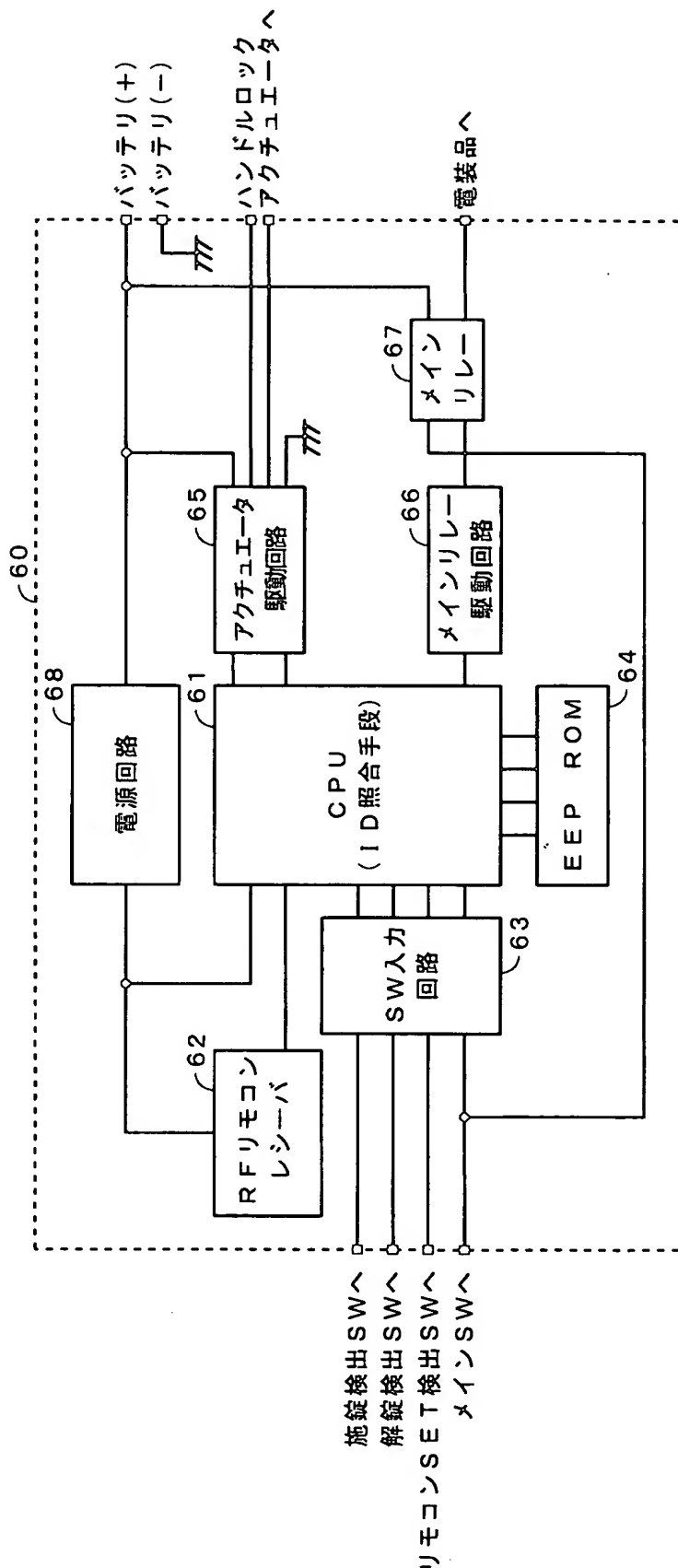
【図 4】



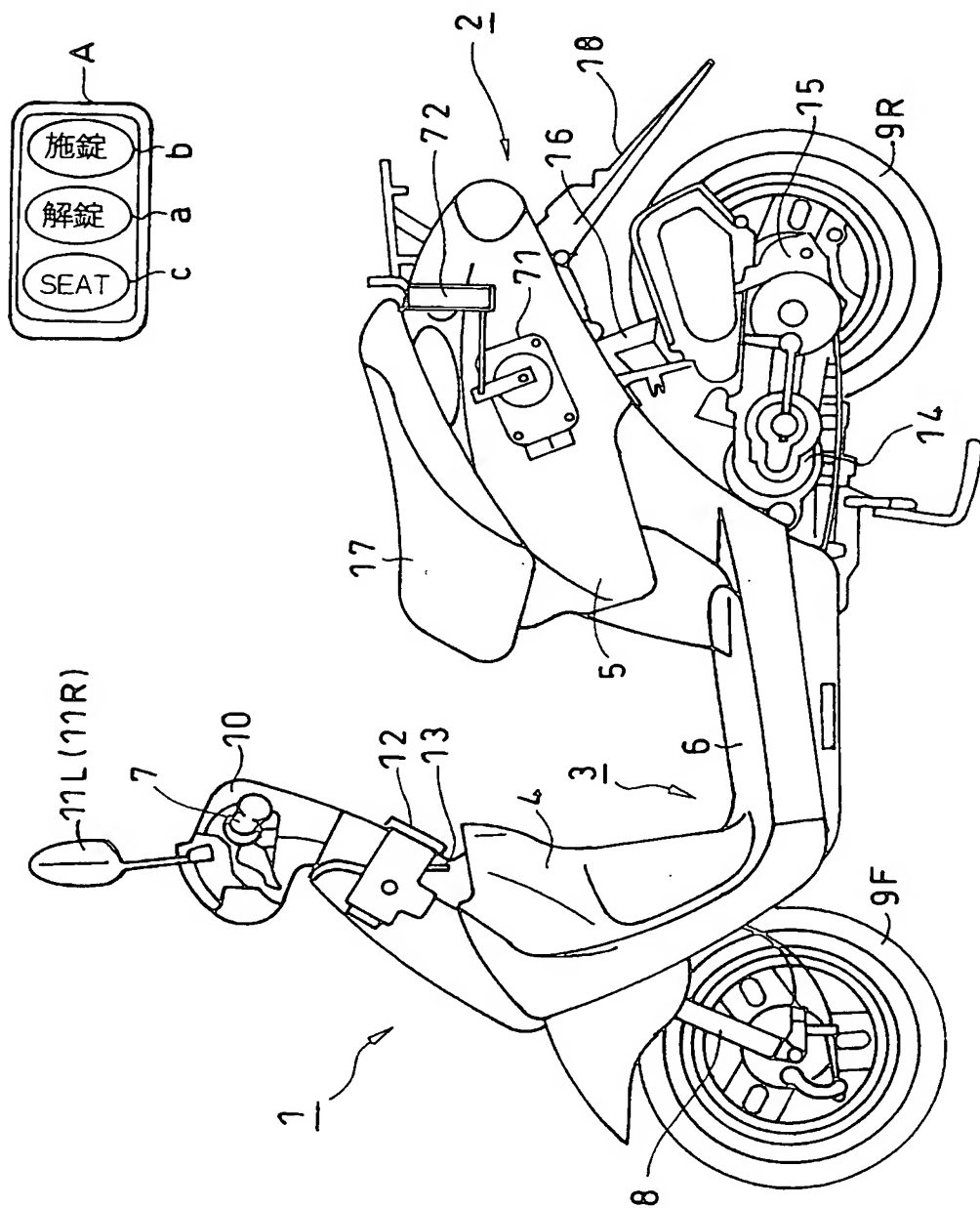
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 盗難を防止するロック機構のロック解除を遠隔操作装置から送信されるロック解除信号で行う自動二輪車における盗難防止装置において、防盜性を維持しつつ、緊急時などにロック解除を手動で行うことができるようにすること。

【解決手段】 ハンドルロックモジュール 12 は、遠隔操作装置（リモコン）A から送信されるロック信号やロック解除信号に応答してハンドル 7 のロックやロック解除を行う。また、ハンドルロックモジュール 12 にキーシリンダ部 13 が下向きに配置されており、ここにエマージェンシキーを挿入して回動すれば手動でロック解除を行うことができる。キーシリンダ部 13 は、開閉可能なカバー部材により覆われていて外部からは見えない。

【選択図】 図 1

特願 2002-281260

出願人履歴情報

識別番号

[000005326]

1. 変更年月日

1990年 9月 6日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都港区南青山二丁目1番1号

氏 名

本田技研工業株式会社